

私はずっと行きたかった、これがなければ今日にでも行きたかった、ある文化イベントがあります。神戸の美術館の『ゴッホ展』。日本人はゴッホ（1853-1890）が大好きだから、数年に1回は来るけど、今回神戸には、東京上野の美術展でも見れない追加の作品が次々に来て。これは皆さん、生きてる間に。

特に行きたいと思うようになったのは、又吉直樹（またよし なおき/1980-）さんのエッセイを読んだからです。芸人でもあり、芥川賞作家でもある又吉直樹さん。ピースの。彼がゴッホ展に行って、「ゴッホの絵を見て、美術館の外に出たら、世界がいつもより美しく見える」と言うのです。いつも見慣れている風景なんですよ。いつも見ている道・いつも見ている空・いつも見ている街路樹。でも、特別に輝いて見えて来る。それは多分、ゴッホの目を借りて世界を見ているからではないかと。

特に彼が好きなのは『糸杉』という絵。私も好きなのですが、『糸杉』は絵です。動画じゃない。一瞬の風景を描いているのに、よく見ると、何だか動いて見えるんです。そして、時間・空気・流れ、そういう…（*マイク不調にて交換）何を言うか忘れた。

『糸杉』は夜なんです。お月さんが出てる。なのに、空の色は水色。夜中なのに空は水色で、糸杉は深いグリーンで、何かモコモコ動いているように見える感じ。1枚の絵にゴッホが見た世界観というか、ゴッホの感性で見たものが全部収まっている。その絵をずっと見ていると、「彼はこれを1枚1枚、凝視するようにして描いたんだな。」私たちは道を歩いていて、街路樹の葉っぱを1枚1枚見るってないと思います。急いでるから。「はよ行かな、マスク売り切れる。」一々、世界の事をじっと見てない。

「天才的な画家の目に、世界はこういう風に映っているのか。その余韻を持って1歩外に出たら、何か世界が新鮮な、私を喜ばそうとしているもので満ちているかのように見えるので、ゴッホの絵が好きだ」というのを読んだので行きたい。でもコロナで行けない。

ゴッホは画家になる前、キリストの伝道者でした。彼は牧師になりたかったんです。「私を牧師に、伝道師にして下さい」と教会に申請したけど、彼は言葉の人ではなかった。だから、向いてないと止められるのですが、「人が止めても、神が私を召しているのだ」と、言う事聞けへんねん。

そんなに言うんだったらという事で、伝道者見習いとして炭鉱町に開拓伝道に行くけど、その町で相手にされないんです。彼は彼なりに一生懸命表現して説明するけど、何を言っているか分からない。

「随分、風変わりな奴が来た」と、人々は耳を貸さない。それでも一緒に炭鉱に入って、一生懸命伝道しようとするけど、最終的に受け入れられない。

その炭鉱で労働争議・賃上げ闘争が起こりました。「もっと給料上げろ!」「日給上げろ!」。ストライキ。ゴッホは何とか仲間入りしたいと思ったんでしょう。連帯意識を表明するために、一緒になってストライキ運動に入ってしまったのです。それが雇い主の耳に入り、その人を經由して教会にも連絡が行き、「何してんの? 政治運動をするために行ったの? 聖書の話をするために行ったんじゃないの?」「いや、あの、あの…」。上手く伝わらない。で、クビです。

そこで彼は、2番目にしたかった仕事に就きます。それが画家。ゴッホは生前に800枚くらい描きますが、売れたのは1枚だけ。買ってくれたのは弟。亡くなった後で評価されたんですね。

ところで、ゴッホは炭鉱時代の事を思い出して、弟テオとの間に何百通という手紙のやり取りをしています。それが日本語にも翻訳されて出版されていますが、それを見ると、ゴッホは画家である前に哲学者ですね。色々よく考えている。

炭鉱は肉体労働。狭い坑道の中を掘り進んで行くので、色んな怪我をするし、服はすぐボロボロになる。貧しい炭鉱夫たちには服もない。そこで、荷物を入れるドンゴロス・麻袋の底の部分と両側に穴を開けて首と手を出す。服じゃない。荷物が入っていた袋が服代わり。

その袋に「こわれもの注意」と書いてあったんです。恐らく精密な機械か、ガラスなどの壊れ易い物が入っていた。「これを扱う時、放り投げたりしないで」という「こわれもの注意」の文字が、汗だくになって働いている労働者の背中に。

それを読んだ時、「そうだ。人間は壊れものなんだ。非常に繊細で、もっと丁寧に扱われてよいものなんだ。袋の中身がガラス細工なら丁寧に扱うし、精密機械なら慎重に扱う。だけど、人間の方がガラス製品よりも、精密機械よりも、もっと価値があるのに、なぜ人間は人間に接する時乱暴にやるんだろう？ 人はもっと大切にされ・尊敬され・丁寧に接してもらっていいのではないか。」哲学者だと思いませんか？

彼は、特に初期は聖書的な発想でやっています。だけど色んな持病があって。以前『ゴッホと聖書』という事で何回か講演した事がありますが、それを思い出しながら、「画家の目で世界を見るとそういう風に見えるのか。では、神の目で人を・自分自身を見られたら、どのように映っているのだろうか？」

これを紹介している箇所があるので、今日、一緒に見てみたいと思います。

イザヤ 49:15-16 **女が自分の乳飲み子を忘れるだろうか。自分の胎の子をあわれまないだろうか。たとえ女たちが忘れても、このわたしは、あなたを忘れない。見よ、わたしは手のひらにあなたを刻んだ。あなたの城壁は、いつもわたしの前にある。**

2700 年前に書かれた旧約聖書の預言です。直接的には、神がイスラエルという民族に語った言葉ですが、イスラエルは人類の代表と考えれば、適応的に私たちにも語られていると言えると思います。そこで今日は、適応的なメッセージとなりますが、ここから考えてみたいのです。

神様は人間をどのようにご覧になっているかという、**女が自分の乳飲み子を忘れるだろうか。**

神は人を、**女にとっての自分の乳飲み子**のように見ておられるのだ。

最近の医学の進歩を考えると、IT 革命・人工知能で、難病の色んな治療法や新薬を次々に考えて、人間の英知はすごいと思うけど、人間がどんなにすごい事を成し遂げたとしても、神様の前には**乳飲み子**のような存在である。

乳飲み子は、親から守られなければ生きて行く事はできません。誰かに守られ、世話を受けなければ、自分の力で生きて行く事はできないですね。特に、超未熟児で生まれて来た赤ちゃんは保育器に入れられます。保育器から出されたら危ない。色んな条件を整えてもらって、ミルク・オムツ、色々構ってもらって命を繋いでいく。命はあるけど、世話を受けなければ生きて行く事はできない。

未熟児に保育器が必要なように、人間にとって地球は保育器のようなもの。

漆黒の闇の宇宙の中で、地球だけが、人が生きて行く上でなくてはならないものが見事に整備され、調整された世界であるという事を、神様は現わして下さっているのです。

僕は宇宙が好きで、遂にアポイントを取って、来年 NASA に行き参ります。しかも通訳あり。どうして

も見たいものがあるって、無理矢理ねじ込んでもらったんです。宇宙って、すごい世界。でも、基本的には真空ですよ。宇宙には空気がないから、このまま出て行くと死んでしまう。地球は宇宙にあるけど、地球の周りを大気を取り巻いているので呼吸をする事ができるんです。

実は、大気は酸素供給だけではありません。人間が生きて行くのに不可欠なものだけど、忘れられがちなものに「気圧」があります。

私は低気圧に弱くてね。大体九州で 1000hPa 切ったくらいになると、体の中でアラームがチロリンと鳴り出す。これが頭痛の始まり。「あ、来た来た!」。あれはたまりません。低気圧でどーんと来る。

呼吸とは、大気中の酸素が、肺の中の肺胞という細胞の膜を通過して血液に溶け込む現象です。肺胞に酸素が溶け込むためには気圧が必要で、気圧がどんどん低くなると、100%酸素に囲まれていても、体の中に酸素は入って来ないんです。

「高い山に行くと空気が薄くなる」と言うけど、酸素濃度そのものは、もちろん密度は低くなりますが、減っているわけではない。気圧が減るので、体の中に酸素が入って来ないんですね。地面では1気圧(760mmHg)。2万mまで行くと40mmHg。そうすると、100%酸素に囲まれても、気圧が弱すぎるので入って来ない。それで窒息します。

気圧が低くなると沸点が下がります。山で飯盒炊爨をしますが、あれは圧力釜です。100度で沸点なのに、気圧が減ると90度・80度・70度になって来るのでお米が美味しく炊けない。40mmHgまで行くと、窒息するだけじゃなくて、人間の体温で人間が沸騰する。人間の体の70%は水なので、もし気圧が無くなったら、人間は風船が破裂するみたいに爆発するんです。地球を1歩出たらそんな世界。

私たちは太陽の恵みとか言いますね。確かに多くの恵みがあるけど、太陽を恵みに変えているのは地球の環境で、そのままなら放射能浴びまくりですよ。ヴァン・アレン帯で押し返しているのです。

とにかく、人間が宇宙の中・地球という所で生きているというのはもう奇跡。だから、神を信じていない宇宙論の学者たちも、最先端の宇宙論で何と言っているかという、「宇宙の人間原理」・宇宙は人間を生かすために調整されているようにしか見えない。人間が生きて行くために、たまたまこうなったと言うには、余りにも上手く調整され過ぎているので、宇宙に意思があって、人間が生きて行けるように調整している。

ある科学者は、「宇宙の意思って何ですか? なぜ宇宙は人間のためにそんなにするんですか?」と聞かれて、「人間から『宇宙はそんな風にできている』と感謝してもらわないと、宇宙が寂しいから」って。殆どカルトみたいな世界。最先端の人が言う事って、何か宗教的ですよ。宇宙に意思はないです。宇宙をそのように造った方がおられるのです。

幼子が色々な条件を整えないと生きて行けないように、私たちが造っただけでなく、生かしている方がおられる。乳飲み子のように面倒を見て下さっている方がおられる。人間は神様の目に乳飲み子のように映っている。という事は、神はご自分を女になぞらえているのです。

女が自分の乳飲み子を忘れるだろうか。自分の胎の子をあわれまないだろうか。いや、あわれまないはずがないという意味ですよ。

自分の胎の子とは、自分が産んだ子の事。ところで、お母さんはどんな存在ですかね?

先日、梓みちよ（あずさ みちよ/1943-2020）さんが亡くなりましたね。彼女は昭和 38 年に「こんにちは赤ちゃん」という曲でデビューしました。その時 20 歳。これが爆発的に売れて、100 万枚を超えるミリオンセラーとなり紅白に出ます。そして、この年の高校野球甲子園大会の入場曲。

「こんにちは赤ちゃん」、作曲は中村八大（なかむら はちだい/1931-1992）さん。「上を向いて歩こう」も。作詞は永六輔（えい ろくすけ/1933-2016）さん。中村八大さんが、自分の息子さんが生まれた時「こんちはー！ 親父だぞー！」と言うのを永六輔さんが聞いて、「これ、ええなあ。」それをヒントに、「こんにちは赤ちゃん。僕が親父だぞ」というのが最初です。「こんにちは赤ちゃん」の原詩は「私がママよ」じゃないんです。「僕が親父だよ。」昭和 30 年代のお父さん・お母さんは「パパ・ママ」言わない。まだ定着してない。「お母さん」「親父」

NHK で永六輔自らが歌った時、ディレクターが「うう…。イケてない。」「永さん、折角お作りになったものにケチつけるわけじゃないけど、ママの歌に替えてくれませんか?!」永さんは渋るんです。だって、モデルは作曲家ですよ。でも、あんまり言うので仕方がない。「私がママよ。」そしたらドカン!売れた。人の意見は聞くもんですね。

それで売れに売れて、とうとう昭和天皇（1901-1989）の耳に入った。昭和 38 年（1963）はお孫さん（今の今上天皇）がまだ浩宮様と言われていて、弟さんは赤ちゃん。昭和天皇はこの曲が大好きで、覚えておられたのです。

天皇陛下の前で披露する事を天覧と言います。天皇陛下が大相撲に来たら天覧相撲。長嶋茂雄が天皇の前でホームランを打った。天覧ホームラン。天皇がご覧になるから天覧。それで天覧歌謡曲。梓みちよが学習院かどこかに招かれて歌ったら、昭和天皇がもう喜んで、近寄らせて、お言葉をかけたそうです。「『赤ちゃんこんにちは』をありがとう。」（*昭和天皇の物真似で。）右翼の人に刺されたらあかんからこれ以上は。そしたら梓みちよが「恐れながら陛下、『こんにちは赤ちゃん』でございます。」

「赤ちゃんこんにちは」と、間違っ覚えておられたんですね。ご自分のお孫さんの男の赤ちゃんに、陛下自らがこの歌を歌っていたのですが、それは「赤ちゃんこんにちは♪」で、それが焼き込まれてしまった。しかし、梓みちよ本人から「恐れながら陛下、『こんにちは赤ちゃん』でございます」と言われて「あ、そう。」（*昭和天皇の物真似で。）ところが、その後お孫さんに歌った時「赤ちゃんこんにちは♪」だったそうだと、いう事が、後に侍従長から永六輔に伝えられました。これは、昭和の秘話の 1 つですよ。

聖書で、神は「父なる神」と呼ばれる事が多い。でも、ここでは女の人になぞらえている。天皇陛下は男だけど「私がママよ」と歌われた。ただ弱い者・ただ守られないと崩れて行く者・ただか細い者じゃなくて、憐み・愛の対象。もう可愛くて可愛くて仕方がない。神は私たちがただ儂い者じゃなく、愛の対象として見ていると言うのです。

親（お父さん・お母さん）を考えた時、以前も話した事があるかもしれませんが、NHK の番組で、野口さんという養子縁組で子供を育てているご家庭にテレビカメラが入った事がありました。野口さんは既に、上 2 人男の子を引き取って、すごくいい子育てをされていました。血の繋がりは無いけど、スクスクと育て。男の子 2 人なので、次は女の子を育てたい。施設に行ってよく様子を見てみると「ゆきみちゃん」という女の子。赤ちゃんではなく既に 4 歳か 5 歳。実にできた子というか、実に行き届いている子というか、片付けもちゃんとする。服もちゃんと畳む。この子なら手がかからないと思って養子にしました。

お兄ちゃんの言う事もよく聞くし、お母さんの言う事もよく聞いて、女の子がいてくれて良かったと思うのですが、小学校に入学するや否や、ものすごい赤ちゃん返りが始まったんです。

まず、ジュース飲む時、コップで飲まなくなった。「哺乳びんに入れて。」チュパチュパとしか飲まない。それから「オムツして。」赤ちゃんいないのにオムツ買ってるのを、近所の人に見られたらあかんと思って、わざわざ隣町まで行って買って来る。そして添い寝して。指しゃぶりで親指にタコ出来るんですよ。しゃぶり過ぎて。「この子、どうなるの?」

1番困ったのが「滑り台ごっこ」。お母さんが編み物とかしていると、肩に乗って来る。文鳥が肩に乗ったら可愛いけど、6歳の子がじっと肩に乗ったら、肩凝りますよ。

「ゆきみちゃん、やめて」と言うと、「はい」と言いながら、頭を下にして滑り台みたいにズリズリと下りて来る。ようやく下りたかと思ったら、今度は反対側に乗る。もう限界で「ゆきみちゃん、やめて。」

「はい」。またズリズリと下りる。これを1日に70-80回。肩がもうキンキンに凝って、歯ぐきから血が出て来る。「辛くて辛くて、どうしたらいいんでしょう?」

その様子をずっとカメラに撮って、保育士に見せました。すると、「これは、赤ちゃんが産道を通ってお母さんから出て来る時の姿勢と同じです。お母さん、最近、何か心当たりありませんか?」「あの子、もらわれて来た事を知っているのに、『私、お母さんのお腹から来たんでしょ? お母さんが私を産んだんでしょ?』ってそんな事ばかり聞くんです。」「そうかあ。多分、赤ちゃんのやり直しをしていると思います。もうちょっとですから、こらえて、赤ちゃんさせてあげてください。」

ある時、お父さんが哺乳びんにカルピス入れて渡したら、「お父さん、失礼ね。私、小学生よ。」

ある日突然卒業してる。何で卒業できたかという、結局試していたんですね。「どれだけ迷惑かけても、この親は絶対自分を捨てない」という事が確認できたら、赤ちゃんを卒業する事ができたと言うのです。聞き分けが良かった幼児時代。なぜ聞き分けがいいかという、聞き分けが良くないと捨てられるんじゃないか。気に入られるために良い行いをしなければ、受け入れてもらえないのではないか。私が子供として受け入れてもらうためには、出来の良い子供でないといけないのではないか。

それで、背伸びして背伸びして、一生懸命頑張ってきたけど、「どうやら、このお父さんとお母さんは、私を実の娘のように愛してくれていそうだ」という事が分かった時、試し始めたんです。

つまり、どこまで迷惑かけても私を捨てないか? 嫌な事しても・ガッカリさせても・辛い目に遭わせても、それでも私を捨てないか? 試して試して試してみても、大丈夫だと分かった時、突然赤ちゃんを卒業した。その番組で「赤ちゃんを十分経験しないと、大人になるのが難しい」と言っていました。

神様は、私たちが神様の理想に到達したら・満したら愛してあげるといふのじゃないです。

女が自分の乳飲み子を忘れるだろうか。自分の胎の子をあわれまないだろうか。 忘れないで、あわれまずにはおれないように、神は人を育てているだけではなく、愛して育ててくれている。

皆さん、「全知全能の神は、あなたを愛しているんだよ。」それをまともに・額面通りに受け止めて頂きたいのです。

神様は私を大事に思っていて下さっている。大切に下さっている。愛して下さっている。これをどの場面で語っているのか?

イザヤ 49:14 **しかし、シオンは言った。「主は私を見捨てた。主は私を忘れた」と。**

イスラエルが神様と良い関係にある時に、「イスラエルよ、わたしはあなたを愛しているよ」と言っているのではありません。イスラエル側は「神はいても、私に何も関心を持ってないし、私を見捨てている。」

でなかったら、人生にこんな辛い事があるはずがない。外国から攻められるはずがない。」不信仰でガチガチに固まってしまっている。ベストコンディションの関係ではなく、むしろ「神なんかいない! 無理!」と愚痴っているイスラエルに向かって「いや、捨てない。絶対に捨てないから」と語っているのです。

イザヤ 49:15 たとえ女たちが忘れても、このわたしは、あなたを忘れない。

「たとえ女たちが忘れても」この1行が語っているのは、忘れる女性がいるという事。つまり、あってはならない事があり得る。起こってはならない事が起こり得る。世界は壊れているから。世界は皆罪人で構成されているから。あってはならない一線を超える事が「罪」といわれている事です。この世界では残念ながら、親だけと子供を愛さない親・母親だけと子供に愛情を持たない母親があり得る。しかし、たとえ人はそうであったとしても、**このわたしは、あなたを忘れない。**

その証拠として2つ挙げるのです。

①神様の言葉は、言った通り全部成る。本当の事である。イザヤ書が書かれて百数十年後に、ユダヤ人の国はバビロンに滅ぼされて無くなり、ユダヤ人は遠い国バビロンに連れて行かれました。それは、彼らが神に反逆した結果ですが、ここで言っているのは「そうなるけど、その地であなた方は悔い改める。」

イザヤ 49:17 あなたの子どもたちは急いでやって来る。あなたを破壊し、廃墟とした者たちは、あなたのところから出て行く。

イザヤ 49:19-20 あなたの廃墟と荒れ跡と滅びた地は、今に、住むには狭すぎるようになり、あなたを呑み込んだ者たちは遠くへ離れ去る。あなたが子を失った後に生まれた子らが、再びあなたの耳に言う。「この場所は私には狭すぎる。私が住めるように場所を広くしてください」と。

廃墟と荒れ跡とは、ユダヤ人国家の首都だったエルサレムの事で、エルサレムの中心的な建物だった神殿が炎上してしまうのです。エルサレムは跡形もなく滅びた地になる。

しかし最終的にその地は、今に、住むには狭すぎるようになり、あなたを呑み込んだ者たちは遠くへ離れ去る。あなたが子を失った後に生まれた子らが、再びあなたの耳に言う。「この場所は私には狭すぎる。私が住めるように場所を広くしてください。」

ユダヤ人はエルサレムを2回失ったけど、1967年にエルサレムがオールドシティを含めて返って来た。今イスラエルの首都はエルサレムですが狭すぎるんです。イスラエルで人口が最大なのはハイファじゃない。テルアビブじゃない。エルサレム。エルサレムは交通の便が悪く、海に面していないし、空港もないんですよ。そもそも水源地がない。ただ神が選んだ場所なんですね。そこにユダヤ人がどんどん増えて、西エルサレムは拡大して増加している。

あなたが子を失った後に生まれた子ら（ユダヤ人の子孫たち）が、再びあなたの耳に言う。「この場所は私には狭すぎる。私が住めるように場所（エルサレム）を広くしてください。」これが、今起こっている事です。聖書に書かれている預言は、どんなに不可能に見えても、必ず実現します。

それによって、「聖書・神の言葉には間違いがない。言いつ放しのスローガンではなく、それを実現する力がある。言葉がそのまま事実になっている。」それを見る事によって、「わたしはあなたを決して捨てない」というその言葉も事実だと信じる根拠になるのです。

②**イザヤ 49:16 見よ、わたしは手のひらにあなたを刻んだ。**これは、恐らく刺青の事だと思います。

ちょっとやんちゃな人が恋人の名前を彫ったりして、後で恋人が変わった時にえらい問題になりますね。刺青はこすっても消えない。人間の目が絶対見る事ができないのは自分の目です。手のひらは体の中で

も1番よく見る。何かしようとすると手を使うので、いつも目に付く所に、一生消えない刺青であたなの名前を彫る。

そして、**手のひらに刻む**事で痛みが生じます。肉体に傷を受けます。

「わたしは痛みを担って、あなたを生涯忘れる事ができないように、自らに焼き付ける。」
私たちが「神なんか無い」と言って、神から離れている状態をそのまま続け、神から離れたまま死ぬと、神の無い世界に落ちます。これを地獄と言います。一旦死後の世界に行ったら、二度と戻って来れません。しかし神は、私たちがそこに行かないように、ご自分の下に迎えたいと思い、そのためにイエス・キリストの肉体に傷を付けたのです。

2000年前に神の子イエス・キリストが人となって生まれて下さって、十字架にかかって死んで下さいました。自分の罪で死んだのではなく私の罪で。イエスには何の罪もなかったんです。だけど、私の罪のために、身代わりとなって十字架で死を遂げて下さった。両手両足を釘づけられて。よみがえったイエス・キリストの両手両足には傷跡が残っていました。その傷跡は「わたしはあなたを忘れないよ」という事の体に刻まれた証し。歴史上実現した聖書預言の言葉を通して、「決して捨てない」という事は本当である。

もう1つは、イエス・キリストを通して、神様の愛は本物だという事を知る事ができます。もし神様の愛が分からなくなったら、十字架にかかったイエス・キリストを見て下さい。あなたを愛していないのに、あんな事をする理由は何もないではありませんか？ この方は自ら傷を負って死んで下さった。そして墓に葬られ、3日目に死を突き破って復活して下さった方です。

あるご家庭に夫婦で聖書のお話をしに行く事があったのですが、私のお腹の調子が悪くて、というか固すぎて痛い。時間が来ているけど、出し切りたいと思って籠ってました。すると家内が「いつまでやってんの？ 先行くわよ!」「行ってて。」そして駐輪場に行ったらいない。待っててくれてるんちゃうんかと。夫婦で同じ場所を訪問するのに、バラバラで行って冷たいなど。
自転車で目的地に向かっていたら、途中からフワッと現れて「あなた！ 私待ってたのに!」ブワー追い抜いて行った。立ちこぎ、分かる？ 私は並ぼうとするけどガーッと。「あ、怒ってんのや」思って。着いた頃には体力消耗で怒りは消えており、「良かった」と思ったんですけど。
くだらん事ではありますが、待ち合わせしてて遅刻して来たり、待っている自分を無視したら、すごくガッカリしますよね。

神様は、皆さんが生まれた日から今日（こんにち）に至るまで、生活の随所で「神はいるんだよ。」「創造主はいますよ。」「世界が造られた時からずっと、被造物によって神がいる事が分かるよね。」「困っている時誰かに助けを求めて、何とか助かったよね。あれは、わたしが助けたんだよ。」
神は、私たちが神に気づくように、人生にずっと働きかけ続けて来た方です。

聖書のメッセージで「そうだったのか」と分かって返った時、待っていた時間が長ければ長いほど、遂にその人が登場したら嬉しいんじゃないですか？ 神様は、私たちが戻って来るのを待っておられます。十分に信頼できるという証しを、歴史上で実現した聖書預言とイエス・キリストで語っておられるのです。この方は間違いがない方。決してあなたを捨てない方。
ぜひイエス・キリストを信じて、神様の下に立ち返して下さい。

~~~~~  
\* 動画は YouTube で「[HCA 東住吉キリスト集会](#)」検索。ぜひ見て下さい。  
\* ラジオ番組「[聖書と福音](#)」(15分)も是非どうぞ。スマホでいつでも聞けます。 動画筆記：Rumi

